



The Mihara Chamber of Commerce and Industry

80 年のあゆみ

～あしたを変える 未来を変える～

目次

御挨拶	1
祝辞	2 ~ 3
歴代会頭・歴代副会頭・歴代専務理事	4
会頭・副会頭・専務理事・相談役議員	5
常議員	6
監事	7
議員	7 ~ 8
組織図	9
歴史年表	10 ~ 24
三原市の商業	25
三原市の工業	26
三原市の祭り	27
三原市のタコ	27
三原市の特産品・土産品	28
三原市の観光	29
三原市の交通	30
事務局役職員	31
あとがき	32



本所では創立 80 周年を記念し、ロゴマークを募集したところ、全国より 106 作品のご応募をいただきました。

作品の選考を創立 80 周年記念事業特別委員会にて行い、前田貴行さん（東京都）の作品を最優秀作品に決定いたしました。

●ロゴマークコンセプト

団体の未来へ続く躍動感、企業・人・業界をつなぎ、新たな時代を築きあげていく姿を表す。メインカラーのブルーは創造性、グリーンは躍動感、ピンクは市花のサツキをイメージ。

御挨拶



三原商工会議所会頭
森光 孝雅

三原商工会議所は令和2年6月に創立80周年を迎えることができました。これも歴代会頭をはじめ、役員・議員・会員の皆様方の絶大なるご支援と、関係各位のご指導の賜物と、心より感謝申し上げます。

本来であれば、記念式典や記念行事を開催し、直接皆様方に御礼を申し上げるところではありますが、今般のコロナ禍による会員事業所の大変厳しい現状と感染拡大防止の観点から、記念誌の作成ならびに会員の皆様への記念品の贈呈を記念事業に代えさせていただきますので、どうかご理解いただきたいと思います。

これまでの80年間を顧みますと、高度成長期を経てバブルが崩壊、リーマンショックの後、平成23年3月11日東日本大震災・原発事故が発生。平成30年7月には西日本豪雨により三原市も大打撃を受け、経済だけでなく社会全体を大きく揺るがす激動の時代でありました。しかしながら、これらの出来事を機に連携の大切さや人を思いやる気持ちを再確認できたことも事実であり、今やその絆は私どもの大切な宝となっております。また、令和2年7月23日に三原駅前市民広場跡地へキオラスクエアがオープン。令和3年7月には広島空港が民営化されるなど、三原市の経済発展が期待されています。

今まさに、地域経済団体としての真価が問われる状況の中で迎えた創立80周年となりましたが、その節目に当たり、新たな支援制度の創設などに取り組んでまいりました。

現在は、コロナ禍により経営危機に直面する事業所の事業継続支援を最優先し、役職員一同最大限の危機感を持って事業を遂行しているところがあります。

地域経済の回復には長期戦を覚悟しなければなりません。この災禍が終息した暁には、三原商工会議所がこれまで取り組んできた創業支援や観光による交流人口の拡大推進、そして市街地活性化の推進など、今後の地域経済発展のための課題解決に向けた取り組みをさらに加速させてまいります。

これまでの経済活動の概念が根底から覆され、今後の経済活動がどう変化するか不透明な状況ではありますが、一日も早い地域経済の立て直しをめざし、会員事業所の皆様方と共に考え、そして共に歩みを進めてまいりたいと考えております。役員・議員・会員各位をはじめ、行政及び関係機関の皆様方におかれましては、なお一層のお力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様、関係機関の皆様方の今後益々のご繁栄とご活躍、ご健勝を心より祈念いたしまして、創立80周年にあたっての御挨拶とさせていただきます。



日本商工会議所会頭
三村 明夫

三原商工会議所創立 80 周年を迎えられますことを、心よりお祝い申し上げます。昭和 15 年の創立以来、常に地域のリーダーとして、商工業の振興や地域経済社会の発展に大きく貢献されてこられました。これもひとえに、歴代、そして現在の役員・議員・会員、青年部会・女性部会の皆様の弛まぬご尽力の賜物と存じ、改めて敬意を表します。

三原商工会議所では経営相談窓口を設置し倒産・廃業防止のための資金繰り、雇用維持などの相談に全所体制で応じられ、行政および関係団体と連携して要望活動を実施するなど、中小企業が抱える様々な経営課題の克服に大きく寄与されておられますことは誠に心強い限りです。

さて、わが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、未曾有の危機に直面しており、深刻な打撃を受けた中小・小規模事業者等は大変厳しい状況にあります。新たな感染拡大を防止しつつ、ビジネスモデルの転換や地域経済再生に向けて果敢に挑戦し、輝く地域を次代へと繋いでいくことが必要です。そのためには、商工会議所が中心となり、コロナ禍への対応支援、中小企業のデジタル化推進、取引価格の適正化等による付加価値の向上を後押しし、生産性向上を通じた経済成長を実現することが重要となります。日本商工会議所は、現場主義・双方向主義のもと、中小企業の活力強化と地方創生を両輪とした成長をめざすとともに、全国 515 商工会議所のネットワークを最大限活用し、皆様の挑戦を全力で後押ししてまいります。

森光会頭の力強いリーダーシップのもと、一層結束を深められ、積極的な活動の展開により、さらに豊かで活力ある地域が創造されますことを衷心よりご期待申し上げます。



中国経済産業局長
青木 朋人

ここに、三原商工会議所の創立 80 周年にあたり、「創立 80 周年記念誌」を発行されますことを心よりお慶び申し上げます。

昭和 15 年に創立されました三原商工会議所は、地域の総合経済団体として、創立以来、地域の商工業の発展のため地域の企業、特に中小・小規模事業者等の皆様にしっかりと寄り添って歩んで来られるとともに、商工業の総合的改善や発達、社会一般の福祉増進を通じて当地域のみならず、我が国の商工業の持続的な発展へ多大なる御貢献をいただいておりますことに、心より敬意を表する次第です。

新型コロナウイルス感染症との闘いが始まって一年以上が過ぎました。感染症拡大による未曾有の危機を乗り越えるため、「新たな日常」の実現に向け、生活様式のみならず、その原動力たる産業構造や社会システムの転換が強く求められています。ウイズコロナ・ポストコロナの時代に向けて、経済産業省といたしましても「グリーン社会」の実現、「デジタル改革」等を強力に推進してまいります。同時に、歴史的な困難に直面しておられる中小・小規模事業者等の皆様の事業と雇用を何としても守り抜くとの決意の下、総力を結集して対応してまいります。こうした難しい局面において、全国にネットワークを持つ商工会議所の皆様と経済産業省との密接な連携は、これまで以上に必要不可欠なものとなっております。これからもどうかお力添えをいただきますようお願いいたします。

結びに、三原商工会議所の今後さらなる御発展と会員事業者の皆様の御健勝を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



広島県知事
湯崎 英彦

三原商工会議所創立 80 周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴商工会議所におかれましては、昭和 15 年 6 月に創立されて以来、80 年以上の長きにわたり、商工業の振興や地域活性化を通じて本県の発展に多大な御貢献を賜っております。

また昨年来、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と社会経済活動の両立が求められ、小規模事業者を取り巻く環境が厳しさを増す中、国から認定を受けた経営発達支援計画のもと、これまで以上に小規模事業者への伴走型支援に取り組まれています。

これもひとえに、森光会頭をはじめ、歴代会頭、役員並びに会員の皆様の御尽力の賜物と、深く敬意と感謝の意を表する次第でございます。

さて本県では、新たな総合計画となる「安心▷誇り▷挑戦ひろしまビジョン」を策定し、それぞれの欲張りなライフスタイルの実現をめざして、中小企業・小規模企業の生産性向上・経営改善等、県経済の持続的な発展に向けた産業振興に取り組んでいるところでございます。こうした取組を着実に推進し、実効性のあるものとするためには、貴商工会議所のより一層の御支援が不可欠であると考えております。

どうか、この記念すべき 80 周年を契機に、さらなる事業活動を展開され、商工業の振興はもとより、地域社会の発展に一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、三原商工会議所の今後ますますの御発展と会員各位の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



三原市長
岡田 吉弘

三原商工会議所創立 80 周年記念誌の発行にあたり、一言お祝いを申し上げます。

三原商工会議所は、昭和 15 年 6 月の創立以来、会員相互の連携を図りながら、地域づくりや社会福祉の増進など、積極的な事業を展開され、地域社会の健全な発展に大きく貢献してこられました。これも歴代の会頭、役員の皆様及び会員各位の多大なご努力の賜物と、深く敬意を表し、感謝申し上げます。

この 80 年を振り返りますと、本市は重厚長大型の工業都市として急速に発展し、近年は、先端産業の誘致などにより、バランスのとれた産業構造となりました。

一方で、急速に進行する人口減少や少子高齢化に伴う経済の衰退や人材の不足、また、世界的規模で発症した新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、事業者の事業継続に向けた支援等、早急に取り組むべき課題に直面しております。この難局を乗り越えるためには、商工会議所の皆様と本市が、車の両輪の如く連携し、時代を切り拓く取り組みを展開していく必要があります。

本市としましては、本年 12 月に全区画が完成予定の本郷産業団地への新たな企業の誘致や、令和 2 年 7 月にオープンした J R 三原駅前のキオラスクエアを中心とした賑わいの創出、商店街の活性化、また、社会環境の変化を新しいサービスを生み出し提供していくチャンスと捉え、様々な施策に積極的にデジタル技術を活用していくなど、さらに一層、皆様と連携を密にして、力を合わせ、地域の振興と発展に向けて努力してまいります所存でございます。

結びになりますが、創立 80 周年の節目を迎えられたことにあたり、会頭をはじめ、議員、会員各位、職員の皆様方のご健勝とご活躍、並びに三原商工会議所のますますのご発展を心から祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。

歴代会頭



初代会頭
大藤 直平

昭和15年7月～昭和24年1月



第二代会頭
吉永 龍次郎

昭和24年1月～昭和56年5月



第三代会頭
佐藤 光男

昭和56年6月～平成元年4月



第四代会頭
竹本 匡

平成元年4月～平成3年4月



第五代会頭
大藤 直也

平成3年6月～平成7年3月



第六代会頭
勝村 篤博

平成7年3月～平成14年6月



第七代会頭
伏見 暁

平成14年6月～平成25年10月



第八代会頭
勝村 善博

平成25年11月～平成30年6月



第九代会頭
三好 康莊

平成30年6月～令和元年10月

歴代副会頭

森 観次：昭和15年7月～昭和18年9月
 湯川 正志：昭和15年7月～昭和18年9月
 岡田 正：昭和21年10月～昭和24年1月
 高見 茂吉：昭和21年10月～昭和24年9月
 吉永龍次郎：昭和22年5月～昭和24年1月
 前橋 浩：昭和24年1月～昭和27年9月
 三好 常造：昭和24年1月～昭和27年9月
 定森 三郎：昭和27年10月～昭和31年3月
 大藤 亨壮：昭和27年10月～昭和37年3月
 徳永 源吉：昭和31年4月～昭和37年3月
 木曾 清：昭和37年4月～昭和46年3月
 // :昭和52年3月～昭和54年8月
 中川 正司：昭和37年4月～昭和46年3月
 山根 卓三：昭和46年4月～昭和52年3月
 力石 秀雄：昭和46年4月～昭和58年3月

佐藤 光男：昭和55年4月～昭和56年5月
 大目木義登：昭和55年4月～昭和58年3月
 竹本 匡：昭和58年4月～平成元年3月
 大藤 直也：昭和58年4月～平成3年6月
 溝手 顯正：昭和58年4月～昭和61年3月
 勝村 篤博：昭和61年4月～平成7年3月
 安部 俊美：平成元年4月～平成7年3月
 伏見 暁：平成3年6月～平成14年6月
 松田 和三：平成7年4月～平成14年9月
 上田 隆治：平成7年4月～平成22年10月
 鳥越 良和：平成14年9月～平成16年10月
 福島 偉人：平成14年9月～平成22年10月
 勝村 善博：平成16年11月～平成25年10月
 三好 康莊：平成22年11月～平成30年6月
 伊達 和仁：平成22年11月～平成31年10月

歴代専務理事

磯谷 春夫：昭和21年10月～昭和27年9月
 竹内善三郎：昭和27年10月～昭和34年3月
 原 三郎：昭和34年4月～昭和60年1月

奥田 重満：昭和60年2月～平成15年10月
 吉原 宏人：平成15年11月～平成22年10月

会頭・副会頭・専務理事・相談役議員

会 頭



(株)八天堂
代表取締役
森光 孝雅

副 会 頭



山陽建設(株)
代表取締役
深山 隆一



渡辺土地建物(有)
専務取締役
渡辺 康博



(株)住創
代表取締役
後藤 和之



(株)アカリ工業
代表取締役
赤利 俊彦

専務理事



平野 敬二

相談役議員



(株)レニマス
代表取締役
前田 導



(株) DNP ファインオプトロニクス
執行役員・総務部長
新井 行夫



(株)古川製作所
取締役総務部長
榎田 聖二



三菱重工業(株)三原製作所
所長
大久保 光一



帝人(株)樹脂事業本部三原生産部
部長
高木 誠

常議員



(株)鶴田電設コンサルタント
 代表取締役
鶴田 幸彦



日本海洋コンクリート(株)
 監査役
神田 光生



(株)ダルマシード
 代表取締役
沖藤 詳造



(株)渡部瓦三原販売所
 代表取締役
渡部 勝也



(株)ウツミ
 代表取締役
内海 勝議



水兼勇人税理士事務所
 所長
水兼 勇人



(株)三原国際ホテル
 代表取締役
弓場 秀俊



丸果三原合同青果(株)
 代表取締役
松浦 宏樹



大東印刷(株)
 代表取締役
大東 弘典



(有)上田製版印刷所
 代表取締役
上田 隆政



(株)赤石建商
 代表取締役
赤石 靖久



(株)三原美装社
 代表取締役
藤原 聖士



(株)鳥徳
 代表取締役
小林 巧治



富士金属工業(株)
 代表取締役
大目木 康行



保道建設(株)
 代表取締役
保道 茂樹



三好印刷(株)
 代表取締役
三好 康莊



(株)勝村商店
 代表取締役
勝村 善博



田中運輸(株)
 代表取締役会長
田中 綜一



(株)有斐園
 取締役会長
福島 偉人



(株)酔心山根本店
 代表取締役会長
山根 秀朋



イワタニ山陽(株)三原支店
 支店長
上野 一正



しまなみ信用金庫
 理事長
安原 稔



(株)広島銀行三原支店
 支店長
東 佳史



(株)中国銀行三原支店
 支店長
河内 泰之



今治造船(株)広島工場
 常務取締役
檜垣 睦也

監事



(株)森剛
代表取締役
川口 和弘



(株)鈴鹿組
代表取締役
藤田 恭士



(株)エヌワイティグループ
代表取締役
本田 信司

議員



テクノス三原(株)
代表取締役
向田 尊俊



広愛産業(株)
代表取締役
林 茂生



富士技術開発(株)
代表取締役
西岡 宏



藤井建設(株)
取締役社長
藤井 秀哉



広島中央アスコ(株)
代表取締役
越後谷 孝司



三原テレビ放送(株)
統括部長
勝村 祥治



(株)アポロ
取締役
地浦 信一



(株)三信ライフサービス
代表取締役
岡田 文男



(株)浜吉
取締役
神原 加奈子



(有)村上鉄工所
代表取締役
村上 睦宏



サンスイ設備工業(株)
代表取締役
河井 一郎



(株)嵩心
代表取締役
原 隆之



玉浦薬品(株)
代表取締役
玉浦 巖



福山工業(株)
代表取締役
小池 雄大



檜山泰三税理士事務所
所長
檜山 泰三



(株)タケウチ建設
常務取締役
山田 三弥子

議員



(有)灰谷鉄工所
取締役
灰谷 隆広



(株)三原シティホテル
代表取締役
榎本 邦孝



ファインメタル工業(株)
代表取締役
田中 亮介



(株)原アルミ建材
代表取締役
原 邦高



(株)共立機械製作所
代表取締役
池内 義隆



(株)藤井
代表取締役
藤井 寛也



広島ガス三原販売(株)
代表取締役
松山 充利



(有)ライフパートナー
代表取締役
中平 信康



(株)ガルバ興業三原工場
代表取締役
菊川 美仁



三和(株)
代表取締役
須崎 裕之



(株)中国トラベル三原支店
営業統括本部長
隅本 秀明



(株)サービスセンター
代表取締役
伊達 護



呉信用金庫三原支店
支店長
西内 俊二



イオンリテール(株)イオン三原店
店長
森 雅弘



広島県信用組合三原支店
支店長
田邊 正司



(株)もみじ銀行三原支店
支店長
田坂 耕太郎



池田興業(株)三原支店
支店長
川崎 朋明



広島ガス(株)備後工場
工場長
角野 基昭

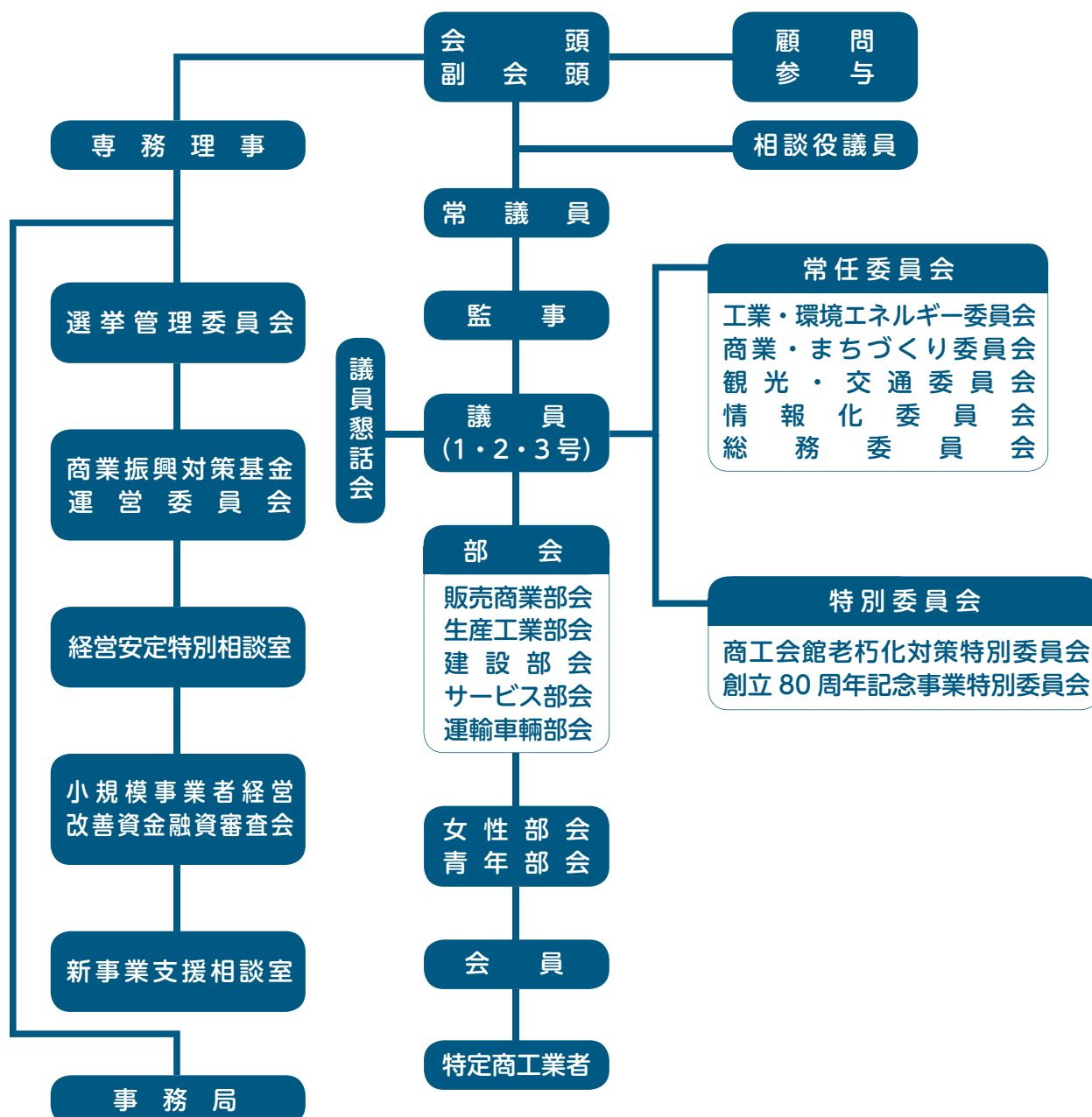


(株)フジ フジグラン三原
店長
井出 昌幸





中国電力ネットワーク(株)尾道ネットワークセンター
副所長
小林 正剛

組織図



1889-1942

明治22年～昭和17年


1911 明治44年	・三原商工会が発足
1940 昭和15年 3月	・三原商工会議所設立内認可伺書を提出 商工会議所設立調査事項により三原商工会議所設立発起人総代内海勝司氏より内認可伺書を商工大臣藤原銀次郎氏に提出
5月	・三原商工会議所設立発起人総代内海勝司氏より設立認可申請書を商工大臣藤原銀次郎氏に提出
6月	・三原商工会議所設立認可 商工省指令一五監五五四四号をもって商工大臣藤原銀次郎氏より設立認可を受ける
	  ▲初代会頭 大藤直平
1941 昭和16年 5月	・広島県商工業報国会三原支部結成 戦時体制により商工会議所の使命は一転して商工業報国の一途を辿り、これから先商工業の繁栄策より戦力増強に全力投球をせざるを得なくなる

三原市の動き

- 1889年(明治22年) ・三原が町制を導入
- 1892年(明治25年) ・山陽鉄道株により尾道-糸崎間に鉄道が開通
- 1893年(明治26年) ・三原城本丸跡へ三原駅が設置
- 1894年(明治27年) ・糸崎-広島間に鉄道が開通
- 1900年(明治33年) ・糸崎港開港(特別輸出港となる)、神戸税関糸崎支署が設置
- 1907年(明治40年) ・スタンダード石油会社糸崎油層所が設置
- 1909年(明治42年) ・広島県立三原女子師範学校が開校
- 1911年(明治44年) ・三原市に電灯が設置される
- 1918年(大正7年) ・日本ラミー紡績株が設立。のちに買収され旧トスコ株三原工場となる
- 1925年(大正14年) ・本町2、3丁目を中心に半どん夜市が始まる
- 1932年(昭和7年) ・日東セメント株糸崎工場(旧山陽白色セメント株)創業
- 1933年(昭和8年) ・帝国人造絹絲株三原工場(現帝国株「帝国興業株三原営業所」)起工式、翌9年10月16日落成創業
- 1936年(昭和11年) ・三原町を中心とする2町4村(三原町・糸崎町・山中村・西野村・田野浦村・須波村)が合併して三原市になる
- 1938年(昭和13年) ・港町に三原市役所庁舎(旧市庁舎)が落成
- 1942年(昭和17年) ・市営乗合自動車事業(旧三原市営バス)が運行開始

1943-1953

昭和 18 年～昭和 28 年

<p>1943 昭和 18 年 3 月</p> <p>10 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商工経済会法が公布され、商工会議所廃止 法律第五二号をもって商工経済会法が公布され、従来の商工会議所は廃止されることになり、各府県を単位に商工経済会が結成され、下部組織は支部として存続。日本経済が徹底的な戦時統制に進むにつれ、商工会議所も統制経済の運営に協力することを余儀なくされ、商工業者の自治機関から行政機構の下部機構的な制度に変質。全国 144 の商工会議所は 47（各都道府県単位）の商工経済会に再編成された ・ 広島県商工経済会設立。同時に三原商工会議所は三原支部として発足（理事 大藤直平氏、吉永龍次郎氏）
<p>1946 昭和 21 年 3 月</p> <p>10 月</p> <p>12 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本商工経済会及び各地商工経済会の解体と商工会議所制度の復活 戦前のように特別法に基づく制度として要望するも、占領軍当局の相容れるところとならず、任意な制度として実施されるよう指示を受ける。昭和 22 年末には民法に基づく社団法人として認可されたのは 242 商工会議所であった ・ 社団法人三原商工会議所設立総会 10 月 21 日、三原商工会議所設立認可申請書提出、12 月 19 日付、設立認可 商工経済会の解体により商工会議所の復活を図り、民法法人として社団法人三原商工会議所の創立総会開催、10 月 28 日役員選任を行い、大藤直平氏が会頭に就任 ・ 社団法人三原商工会議所設立認可を受ける
<p>1949 昭和 24 年 1 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大藤会頭の後任に吉永龍次郎副会頭が選任され、第二代会頭に就任 <div data-bbox="1118 1144 1361 1402" style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: right;">▲第二代会頭 吉永龍次郎</p>
<p>1950 昭和 25 年 7 月</p> <p>11 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三原中小企業相談所設置 中小企業の経営及び技術の改善発展を図るため、三原中小企業相談所を設置 ・ 三原商工会議所認可を受ける 昭和 25 年 5 月 31 日、法律第 215 号をもって商工会議所法が公布され、11 月 29 日付をもって通商産業大臣横尾龍氏より認可を受ける。同法の施行により商工会議所組織の基準と活動の原則を示して規制を行うことになり、301 の商工会議所が新商工会議所として再出発を行う

三原市の動き

- 1943 年（昭和 18 年）・三菱重工業(株)三原車輛製作所（現三菱重工業(株)三原製作所）設立
- 1947 年（昭和 22 年）・三原商栄会設立
商店街における個店の共同活動の必要性から団結を図り、三原商栄会が設立された。以後、各地域に商栄会が誕生
- 1953 年（昭和 28 年）・糸崎港が重要港湾に指定される。三原駅の駅舎が改築

1954-1964 昭和29年～昭和39年

1954	昭和29年 9月	・新商工会議所法公布に基づき組織変更し、特殊法人三原商工会議所となる 新商工会議所法（昭和28年8月1日公布、10月1日施行）に基づき三原商工会議所組織変更の認可申請を通商産業大臣に提出、9月25日付で認可され現在に至る
	10月	・三原商工会議所創立15周年記念式典挙行 三原商工会議所において記念式典を行う。全市協賛大売出し、優良品展示即売会開催、商店装飾展示会等を行う
1955	昭和30年 10月	・議員定数の増員 経済事情の変化により、活動体制の強化を図るため、議員定数を従来の50人から5人増やして55人とした
1956	昭和31年 5月	・常議員定数の増員 昭和30年10月の議員定数の増員により、常議員を2人増とし、従来の16人から18人とした。総会員数703人であった
1960	昭和35年 7月	・経営改善普及員の設置、経営改善普及事業を実施 中小企業相談所に経営改善普及員（現経営指導員）2人を設置し、小規模事業者の経営又は、技術改善発展事業に取り組む
1964	昭和39年 11月	・三原商工会議所創立25周年記念式典挙行 三原商工会議所にて記念式典を挙行、永年勤続議員5名、永年勤続職員5名の表彰を行う
	12月	・議員定数及び常議員定数の増員 地区内商工業の現況と将来の発展に備えて、議員定数55人から60人に、常議員定数18人から20人に増やした

三原市の動き

- 1958年（昭和33年） ・観光客の誘致、観光資源の開発、観光施設の整備運営の促進等によって観光事業の健全な発達に寄与する目的で三原観光協会が設立された（現（一社）三原観光協会）
- 1959年（昭和34年） ・市内商店街にスーパーマーケットが出現し、小売業界に相当の影響を及ぼし、一時は混乱をきたしたが、その後全般的に好況の持続と商店経営上の改善努力が相まって平穏を取りもどした
 - ・広島県信用保証協会三原支所が設置される
広島県信用保証協会三原支所の設置が実現し、事務所が三原商工会議所内に置かれた。三原支所の設置は同協会における支所設置第1号であり、これにより県東部地区の中小企業金融に多大な貢献を与えることになった（現在：福山支所）
- 1960年（昭和35年） ・豊田郡瀬戸田町、本郷町、加茂郡河内町、大和町、豊栄町及び、御調郡久井町が独立し、当所管内より分離。商工会の組織等に関する法律（昭和35.5.20公布）の施行により当所管内に所属していた各町は、それぞれ分離し、商工会を結成した
- 1961年（昭和36年） ・山陽本線三原 - 広島間電化完成、昭和36年10月に上り線電化が完成、昭和37年6月に下り線電化が完成
- 1963年（昭和38年） ・帝人ナイロン工場が創業
- 1964年（昭和39年） ・備後工業整備特別地域の指定を受ける
三原市は、備後諸都市とともに備後工業整備特別地域に指定され、将来臨海工業都市として一段と発展すべく、公共設備の整備拡充を関係当局に要望した

1965-1972

昭和40年～昭和47年

1965	昭和40年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・備後工業整備特別地域商工会議所会頭会議発足 昭和39年9月、備後工業整備特別地域の指定を受け、同地域内で商工会議所会頭会議を発足。地域内の工業の基盤となる施設の整備等を一層促進するため、情報・意見の交換、関係機関への要望陳情などを行う 	
1966	昭和41年11月	<ul style="list-style-type: none"> ・三原市制30周年記念へ協賛 三原物産展を開催 三原市制30周年祝賀行事として三原商工会議所主催で、11月22日から24日まで3日間にわたり三原物産展を開催。市内四大工場をはじめとして、業者、メーカー32業者が出店。当市における代表的な物産及び特産商品の宣伝、紹介、販路開拓、取引の促進に貢献 	
1969	昭和44年5月	<ul style="list-style-type: none"> ・三原商工会館の建設竣工（総工費1億3,000万円） 地区内商工業者が永年にわたり待望してやまなかった三原商工会議所会館が竣工し、5月13日、盛大に落成式典を挙行。会館は商工会議所事務局であることと共に、当時としては最先端のあらゆる社会福祉施設を具備し、当地区商工業の殿堂として利用価値の高いものであった 	
1970	昭和45年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所会員共済制度開始 三原商工会議所の福利事業の一環として会員の福祉向上のため会員共済制度を開始。会員事業所の事業主、役員及び従業員（家族従業員を含む）の福利の向上を図る 	
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数及び常議員定数の増員 当市は先に備後工業整備特別地域に指定され、さらに山陽新幹線の停車駅の決定、今後の産業・交通・観光に大いに期待され、都市計画のもとに整備途上にあった。三原商工会議所としても地域総合開発の総合団体としての活動体制を強化するため、議員定数60人を65人に、常議員定数20人を21人に増やした 	

三原市の動き

- 1965年（昭和40年）
 - ・三原市庁舎が落成（建設費3億3,342万円）
 - ・戦後最大の倒産件数発生（発表）
前年に引き続き不況にあえぎ、経営規模の大小を問わず戦後最大の倒産件数となる。各企業とも経営の合理化とその対策に苦慮した年であった
- 1966年（昭和41年）
 - ・三原市文化会館が落成（建設費1億7,697万円）
- 1967年（昭和42年）
 - ・集中豪雨により死者20名、激甚災害指定を受ける
7月9日、午後、広島県内を襲った集中豪雨のため三原市内は、河川の氾濫などに周辺部は甚大な被害をうけ、死者は20名に達し、激甚災害の指定を受け、被災業者に対する復旧資金の斡旋等に全力をあげた
- 1970年（昭和45年）
 - ・日本万国博覧会開幕
日本万国博覧会が大阪千里ヶ丘で開催。8月20日、21日には三原やっさ踊り（105名）が出演した。
 - ・呉線の全線電化工事（95.8km）が完成し、開通による商圈拡大に寄与
- 1971年（昭和46年）
 - ・新幹線三原駅起工式（昭和50.3.10開業）
- 1972年（昭和47年）
 - ・三原内港フェリー・棧橋が完成
 - ・三原 - 今治間に高速船が就航（所要時間55分）
 - ・三原港湾ビル完成（建設費2億4,000万円）
海の玄関として三原港湾ビルの建設は、産業・観光面など四国・島嶼部との交流にその機能を発揮
 - ・第1回三原夏祭り（従来の春祭り、臨港祭花火大会、やっさ踊り大会を統合）が開催

1973-1978 昭和48年～昭和53年

1973 昭和48年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模企業等経営改善資金（マルケイ資金）融資制度創設 商工会議所等の実施する小規模事業経営改善普及事業における経営指導を金融面から補完し、同事業の実効性を確保するため、小規模企業等が経営改善を行うにあたって必要な小口資金を商工会議所会頭の推薦に基づき国民生活金融公庫（現㈱日本政策金融公庫）から無担保無保証人低利で融資する制度の運営
1974 昭和49年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・三原商工会議所創立35周年記念式典挙行 三原商工会議所にて記念式典を挙行、記念事業として経済講演会を開催。35周年記念誌を発行
1977 昭和52年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数及び常議員定数の増員 三原市内における経済基盤の早急な整備が求められている状況を受け、地域総合経済団体として三原商工会議所は地域環境の変化に対応し得る体制の充実を図るため、議員定数65人を75人に、常議員定数21人を25人に増やした
1978 昭和53年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業倒産防止共済法制定、共済制度スタート 取引先企業の倒産の影響を受けて、中小企業が倒産する等の事態が発生することを防止する目的で、中小企業者の相互扶助の精神に基づき中小企業倒産防止共済制度を確立。中小企業の経営安定に寄与する
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会議所100年記念式典挙行 商工会議所100年記念式典が東京で行われ、記念行事として商工会議所役員・議員、及び職員の特表表彰があり、三原商工会議所では通商産業大臣表彰3名、日本商工会議所会頭表彰16名が表彰された
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・特定不況地域中小企業対策臨時措置法施行 三原市は構造不況関連企業と失業率増大の関係から、隣接市町村とともに特定不況地域の指定を受けた。また、市内経済界は円高の進展や企業城下町等における構造不況など内外の経済的事業の著しい変化により、特定地域において中小企業者の事業活動に著しい支障が生じているため、これらの中小企業者に対して新たな環境への対応を円滑にする等の措置を講じることを目的に施行された

三原市の動き

- 1973年（昭和48年）
 - ・駅前再開発ビル核テナントに天満屋が決定
- 1974年（昭和49年）
 - ・佛通寺が国鉄周遊地に指定される
- 1975年（昭和50年）
 - ・山陽新幹線岡山 - 博多間開通三原駅停車
これにより東京・大阪・九州は一段と近くなり経済的効果はもちろん、交通の要衝地点として人・情報の交流が活発になる
 - ・" やっさ踊り " アメリカで披露（アメリカ建国200年祭に日本民族芸能の代表として）
- 1976年（昭和51年）
 - ・第1回三原やっさ祭りを開催
400有余年の伝統とともに三原地域の文化として多くの人に継承されてきた「やっさ踊り」を、より発展的に市民総参加のもとで、やすらぎとふれあいのある三原やっさ祭りにするため、「やっさ踊り」、「花火大会」、「夏祭り子どもやっさ」の行事を一本化して「やっさ祭り」として開催

1979-1982 昭和54年～昭和57年

<p>1979 昭和54年 4月</p> <p>8月</p>	<ul style="list-style-type: none"> 倒産防止特別相談室を開設 中小企業の多くは経営の悪化、不渡手形などにより倒産寸前の事態に直面した場合、経済的資産的能力に乏しいため被害を深めて倒産する事例が多い。このため倒産防止特別相談室を設置して申し出を受けた後、再建の方途を講じることや、円滑な整理を図ることなど社会的混乱の未然防止に努める 小規模企業振興委員をおく 商工会の組織等に関する法律に基づく小規模事業経営改善普及事業をより一層円滑に推進するため、三原商工会議所に小規模企業振興委員を10名選任した
<p>1980 昭和55年 2月</p> <p>10月</p>	<ul style="list-style-type: none"> 副会頭3人制となる 事務機構の強化を図り、事業活動をより一層活発に推進していくとともに、広域にわたる関係諸団体との連携を密にしながら任務を完遂していくため、責任理事者拡充の必要性により副会頭を2人から3人に増やした 三原商工会議所創立40周年記念式典挙行 三原商工会議所にて記念式典の挙行、永年勤続役員、議員、職員の表彰を行うとともに、日商・県・市から祝辞が述べられた後、関係各界の代表を招いて祝宴を行った
<p>1981 昭和56年 5月</p> <p>10～11月</p>	<ul style="list-style-type: none"> 吉永会頭の辞任に伴い、後任の会頭に佐藤光男副会頭が選任され、第三代会頭に就任 航空時代に備えてシンガポールを視察 三原商工会議所議員を中心とした17人が将来の航空時代に備えてシンガポールのチャンギ空港にみる都市開発について視察。国と住民の協力体制の実情をつづさに見聞した
<p>1982 昭和57年 5月</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新空港問題対策特別委員会を設置 新広島空港建設候補地として本郷町用倉地区を決議し、関係機関に対して誘致活動を行うとともに、臨空都市としての三原のまちづくりについて調査研究を行う



▲第三代会頭 佐藤光男



三原市の動き

1981年（昭和56年）・ヘアシティ三原がオープン（総事業費165億円）

1983-1986 昭和58年～昭和61年

1983	昭和58年 9月	・会員アンケート調査実施、ニーズを探る 親しめる、頼れる、みんなの商工会議所として事業活動を進めるため、全会員を対象にアンケート調査を実施。今後の事業活動に反映する
	10月	・秋田空港視察 新広島空港が本郷町用倉地区に決定したことをうけて、三原商工会議所では三原市が今後どのような都市として発展すべきかを探るため、先進都市の秋田市を視察し、空港が及ぼす周辺開発について研修した
1984	昭和59年 4月	・三原商工会議所にニューメディア研究会発足 地方都市三原にも高度情報化社会の波が押し寄せてくるのは必至であり、三原商工会議所にニューメディア研究会を発足させて、商工業面への影響やその対応を探ることとした
	9月	・「商工みはら」200号を超える 三原商工会議所広報委員会が発行している「商工みはら」が200号を数えることになった。広報紙として登場したのが昭和24年5月。以来35年が経過し、これからも市民と商工会議所のおよびパイプ役になることを誓う
1985	昭和60年 2月	・大学誘致推進協議会発足 三原商工会議所では、市民サイドの大学誘致推進協議会を発足させ、産業とのバランスがとれた街づくりに取り組むことになった。構成メンバーは顧問1名、相談役3名、委員10名
1986	昭和61年 5月	・三団体で三原市基本構想策定に対し提言 三原商工会議所、広島経済同友会三原支部及び(社)三原青年会議所の三団体は、三原市に対し、三原市基本構想策定にあたっての提言として「新広島空港と三原市」を策定し提出。これは新広島空港の建設が決まり陸海空の交通を生かし、いかに地域の発展につなぐかについて広島大学樺本教授に調査研究を依頼し、1要望する提言書をまとめたもの

三原市の動き

- 1983年(昭和58年)
- ・社団法人三原法人会(現(公社)三原法人会)を設立
三原税務署管内(三原市・瀬戸田町・本郷町・大和町)の単位法人会を統合、一本化して社団法人三原法人会が設立された
 - ・広島県は旧広島空港に代わる新広島空港の建設用地として本郷町の用倉地区を決定。同地区は県の中程に位置し、広域的な波及効果が期待される
 - ・小原工業団地(1期工事41.16ha)着工。昭和46年工場立地法に基づき工場適地の指定を受け、本年度を初年度として昭和60年(61年3月完成)に第1工事完了
- 1984年(昭和59年)
- ・ていじんサンロードオープン
帝人通り商店街に計画されて13年ぶりにアーケードが完成。これにより商店街の活性化を図るための街路共同施設事業が追加され、新しい「ていじんサンロード」としてショッピング街が登場した
 - ・三原駅開設90周年記念
明治27年6月10日、山陽本線(糸崎-広島)が開業して90年になるのを記念して90周年記念号の臨時列車を運転。記念入場券の発売など多彩な記念行事が行われた
- 1985年(昭和60年)
- ・広島経済同友会三原支部発足
県下で4番目の支部として結成し、各地経済同友会と緊密な提携の下に事業を行うことになった
- 1986年(昭和61年)
- ・新広島空港整備基本計画決定
昭和61年度政府予算成立(新広島空港実施設計調査費計上)整備基本計画が決定された本年度実施設計調査を皮切りに、以後開港に向けて整備事業が決定されることになった
 - ・市政施行50周年記念

1987-1988

昭和 62 年～昭和 63 年


1987	昭和 62 年	<p>5 月 ・ 宮浦商工振興会設立 三原商工会議所総務委員会が中心となって新しい商工業集積が進んでいる宮浦地区に宮浦商工振興会の結成を促し設立に助力。地域振興を図るとともに、商工会議所事業の PR につとめた</p> <p>11 月 ・ 中国・四川省からの友好団歓迎レセプション 三原市文化会館で広島県・四川省友好提携 3 周年記念の青年民族音楽代表団三原公演が開催され、引き続き三原商工会議所主催による歓迎レセプションを開催。友好・相互理解を深めあった</p> <p>12 月 ・ 第 1 回三原地域商業近代化委員会開催 中小企業庁から「商業近代化地域計画」の地域指定を受け事業推進を図るため、当委員会を設置。基本計画策定事業の概要スケジュール等について意見が交わされた</p> <p>・ 三原地域技術開発委員会設置 県の策定したテクノベルト構想を基に、三原地域の工業集積において技術革新に対応した新たな技術開発を地域ぐるみで推進するとともに、21 世紀へ向けての新産業の創出を図り地域経済の活性化に資することを目的とし、昭和 63 年 3 月に「三原地域技術開発ビジョン」を策定した</p>
1988	昭和 63 年	<p>2 月 ・ 三原ショッピングセンター商調協結審 市内城町のトスコ跡地に建設予定の「三原ショッピングセンター」出店計画について、調整審議をしていた三原商工会議所商業活動調整協議会は、29 日、調整 4 項目について意見が取りまとめられ最終結審し、3 月 8 日佐藤会頭に答申した</p> <p>・ 西瀬戸内商工会議所協議会三原にて開催第 40 回西瀬戸内商工会議所協議会は、三原商工会議所で開催。広島・山口・愛媛・福岡・大分の 5 県の商工会議所（会員は 50 会議所）の経済交流活動について協議し、意見を交換した</p> <p>3 月 ・ 三原地域商業近代化地域計画基本計画の策定 魅力ある街づくりをめざして 1 年間検討した結果をまとめたこの報告書は四部構成（全 282 頁）で、三原地域の都市環境、商業の現況、展望、商業近代化のための主要プロジェクトについてわかりやすくまとめ、都市計画における商業の明確な位置づけ、商業機能の分担と適正配置など魅力ある街づくりのプランニングをトータルビジョンとして策定している</p> <div data-bbox="1037 1344 1404 1635" data-label="Image"> </div> <p>5 月 ・ 広島県立東部技術センターの視察 三原商工会議所工業委員会と三原地域技術開発委員会の合同による視察研修会として、東部工業技術センターを視察した。新技術開発の実態を企業経営の立場で探ろうとする目的のもとで行われた</p>

三原市の動き

1988 年（昭和 63 年） ・ 小原工業団地へ㈱古川製作所、㈱資生堂、㈱イセキカーボテクノ（平成 3 年 10 月 1 日㈱レニアステクノへ社名変更 現㈱レニアス）の誘致が決定

1989-1991

平成元年～平成3年

1989	平成元年 4月	<ul style="list-style-type: none"> 三原商工会議所は4月28日に臨時議員総会を開催し、佐藤会頭の後任に竹本匡副会頭が選任され、第四代会頭に就任 	 <p>▲第四代会頭 竹本匡</p>
1990	平成2年 1月	<ul style="list-style-type: none"> 三原市まちづくり総合計画基本構想（商業近代化事業基本構想と並行）を策定 <ol style="list-style-type: none"> 都市臨海部再開発プロジェクト 南部リゾート開発プロジェクト 西部新都市開発プロジェクト インターチェンジ周辺開発プロジェクト などが提言された 	
1991	平成3年 6月	<ul style="list-style-type: none"> 三原商工会議所は6月27日に通常議員総会を開催し、竹本会頭の後任に大藤直也副会頭が選任され、第五代会頭に就任 	 <p>▲第五代会頭 大藤直也</p>
	11月	<ul style="list-style-type: none"> 三原商工会議所創立50周年記念式典挙行 三原リージョンプラザ文化ホールで記念式典を挙げる。永年会員の表彰とあわせて、共済加入者の表彰を行うとともに、記念講演会（ハナ肇講演会）、祝賀会を開催した。さらに年度内において記念事業として会員ゴルフ大会、年末大売出し行事協賛等を実施し、刊行物として商工名鑑、50周年記念誌を発行 	
	10月	<ul style="list-style-type: none"> 商工共済うきしろ制度発足 会員共済制度を「商工共済うきしろ」と名を改めて開始 	

三原市の動き

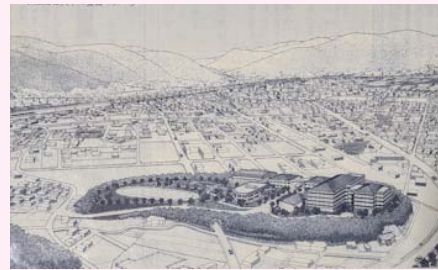
- 1989年（平成元年）
- 三原駅北口広場オープン
 - 小原工業団地（2期工事 46.80ha）着工
 - 海と島の博覧会スタート
7月8日～10月29日までの114日間、三原でも個別の協賛イベント会場として、ヘアシティ三原西館でオープン。三原商工会議所も三原未来図の展示など協賛した
 - 第2回の四川省友好団来三
広島県と友好提携をしている中国四川省から親善交流のため歌舞劇院友好代表団が来三。三原文化会館大ホールで華やかな舞踏と演奏を繰り広げた。今回は昭和62年11月に続いて2回目、公演後、三原国際ホテルで歓迎レセプションを開き、日中の友好を確かめあった
 - 山陽本線（上り線）高架橋へ切り替え
 - 国道2号三原バイパス待望の着工
国道2号三原バイパスの起工式が10月26日、宮浦町の用地内で行われ、市内の国道2号の渋滞解消に向けてスタートを切った。昭和46年の計画発表から18年目の着工となる
- 1990年（平成2年）
- 山陽本線（下り線）高架橋へ切り替え
 - 第1回「トライアスロンさぎしま」開催
 - 三原西部（小原地区）工業団地へ帝人製機株、西川ゴム工業株、株ガルバ興業の誘致が決定
- 1991年（平成3年）
- 鉄道高架事業呉線高架完成

1992-1994 平成4年～平成6年

1992 平成4年 3月	・議員定数及び常議員定数の増員 議員定数75人を80人に、常議員定数25人を26人に増やした
10月	・会員大会を開催 大会式典・新空港建設現地見学・竹原安芸の小京都見学
1993 平成5年 11月	・新空港メッセ開催 三原商工会議所は三原産業まつりを担当し、JR三原駅舎高架下で実施。3日間で15万人の人数で賑わう
1994 平成6年 8月	・会員大会を開催 大和さくら・中国雑技団公演

三原市の動き

- 1992年（平成4年）
- ・JR三原駅舎、浮城広場、隆景広場、駅東自転車駐輪場、うきしろロビー完成
 - ・新広島空港造成完了
造成達成記念式典開催
 - ・宮浦公園完成（総事業費4億円）
 - ・第1回三原さつき祭り開催
 - ・広島県立保健福祉短期大学（仮称）誘致決定



▲広島県立保健福祉短期大学（仮称）完成予想図

- 1993年（平成5年）
- ・ウォーターフロント整備計画 尾道糸崎港地方港湾審議会が改定案を答申
 - ・広島県立保健福祉短期大学（仮称）公立大学法人（現 県立広島大学三原キャンパス）起工
 - ・山陽自動車道福山西 - 河内間開通
 - ・新広島空港開港（翌年1月14日「広島空港」に名称変更）
 - ・臨空タウンプロジェクト開始



▲ウォーターフロント整備計画



▲新広島空港



▲臨空タウンプロジェクト

- 1994年（平成6年）
- ・広島県三原工業高等学校と広島県緑ヶ丘女子商業高等学校が統合され、如水館高等学校開校
 - ・三原郷心会設立

1995-1998

平成7年～平成10年

1995	平成7年 3月	・三原商工会議所は3月31日に臨時議員総会を開催し、大藤会頭の後任に勝村篤博副会頭が選任され、第六代会頭に就任	
	9月	・会員大会を開催 広島ビッグアーチ、マツダ(株)広島工場、広島プリンスホテルを視察	
1996	平成8年 2月	・三原商工会議所創立55周年式典挙行 会員大会を開催 ピーター(池畑慎之介)歌唱&トークショー	
1997	平成9年 2月	・会員大会を開催 加瀬邦彦&ザ・ワイルドワンズ公演	
	4月	・三原商工会議所女性部会設立	
	9月	・三原商工会議所2,000会員突破	
	11月	・会員大会を開催 栗田貫一・小和田アキ子ショー	
1998	平成10年 3月	・三原商工会議所ホームページ開設	
	10月	・会員大会を開催 サウンズ・オブ・セトによるしまなみ海道クルーズ	

▲第六代会頭 勝村篤博

三原市の動き

- 1995年(平成7年)
- ・三原やっさ太鼓創設
 - ・広島県立保健福祉短期大学開学(2002年閉学)
 - ・広島臨空都市圏形成シンポジウム開催
主催：広島臨空都市圏形成懇談会(三原・竹原・東広島商工会議所会頭等によるパネルディスカッション)
 - ・リバーサイド地域振興会発足



▲広島県立保健福祉短期大学

- 1996年(平成8年)
- ・三原駅前大通り改装「マリンロード」完成
 - ・市制施行60周年記念「三原の産業展」
- 1997年(平成9年)
- ・三原西部工業団地(惣定地区)完成
三原西部工業団地(小原地区)へ広島ガス(株)の誘致が決定。惣定地区企業団地へ鶴見書達(株)と三谷産業(株)の共同出資による新会社本社の誘致決定
 - ・サン・シープラザ(三原市総合福祉健康センター)オープン(総事業費34億7780万円)
- 1998年(平成10年)
- ・三原西部工業団地(惣定地区)ヘイノテック(株)三原工場(仮称)の誘致が決定
 - ・臨空東部広域経済交流協議会設立(3市16町の経済団体で構成)

1999-2001

平成 11 年～平成 13 年

1999	平成 11 年 3 月	・新事業支援相談室設置
	9 月	・会員大会を開催 しまなみ海道バスツアー
2000	平成 12 年 1 月	・三原商工会議所運営機構改革特別委員会設置
	3 月	・情報化研究会が勝村会頭に情報化推進のための提言書を渡す ・三原やっさ祭り検討委員会「三原やっさ祭りに関する答申」をまとめ勝村会頭に答申
	4 月	・三原市中心市街地活性化基本計画の策定（三原市）・TMO の構想がまとまり、三原市から認定を受ける（商工会議所） 「TMO」Town（まち）、Management（運営・管理）、Organization（機関、組織）の略 基本理念：「人・心・夢」はずむ街ハート in 三原
	7 月	・iモード を利用した商店情報発信「i みはら」サービススタート
	11 月	・三原商工会議所創立 60 周年記念式典挙行 会員大会を開催 ジェームス三木講演会
2001	平成 13 年 3 月	・三原商工会議所運営機構改革特別委員会最終答申 ・三原商工会議所青年部会設立
	6 月	・運営機構改革推進委員会設置



三原市の動き

- 1999 年（平成 11 年）
- ・政府景気対策地域振興券交付開始
 - ・国道 2 号バイパス部分開通（恵下谷ランプ - 頼兼ランプ 2.3km）
 - ・西瀬戸自動車道（しまなみ海道）開通
 - ・如水館高等学校 3 年連続甲子園出場



▲国道 2 号三原バイパス恵下谷ランプ

- 2000 年（平成 12 年）
- ・広島県立保健福祉大学 4 年制大学開学（2012 年廃止）
- 2001 年（平成 13 年）
- ・国道 2 号バイパス部分開通（中之町ランプ - 恵下谷ランプ 1.2km）

2002-2009

平成 14 年～平成 21 年

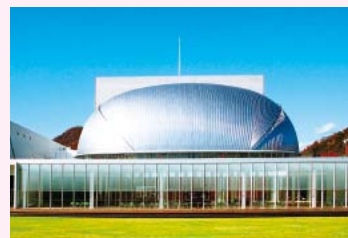
2002	平成 14 年 6 月	・夜店発展実行委員会設置（青年部会）	 ▲第七代会頭 伏見暁
	9 月	・三原商工会議所は 6 月 26 日に臨時議員総会を開催し、勝村会頭の後任に伏見暁副会頭が選任され、第七代会頭に就任	
2003	平成 15 年 2 月	・会員大会を開催 桂文珍講演会「落語的学問のススメ」	
2004	平成 16 年 9 月	・三原商工会館（1F）リニューアル	
	10 月	・三原地域連携推進協議会設立 三原商工会議所が産学官連携事業を担う	
2005	平成 17 年 9 月	・会員大会を開催 下浦刈町散策・大和ミュージアム見学	
2006	平成 18 年 10 月	・三原市推奨観光土産品コンテスト開催（観光交通委員会主催）	
2007	平成 19 年 11 月	・地域資源∞全国展開プロジェクトドライブで楽しむ HIROSHIMANE 観光振興事業開始	
2008	平成 20 年 1 月	・三原商工会議所女性部会 10 周年 東京観察 国会議事堂	
		・会員大会を開催 桂三枝講演会「桂三枝という生き方」	
2009	平成 21 年 7 月	・株式会社づくり三原設立	
	8 月	・三原うきしろ商品券発売	
	10 月	・三原市中心市街地活性化協議会設立	

三原市の動き

- 2002 年（平成 14 年）
 - ・国道 2 号バイパス部分開通（頼兼ランプ - 新倉ランプ 1.8km）
 - ・三原能力開発支援センター開所
 - ・シャープ(株)電子部品事業部三原工場生産開始
 - ・すなみ海浜公園開園
 - ・福祉用具研究会設立
- 2003 年（平成 15 年）
 - ・三原印刷工業組合設立総会
 - ・国道 2 号木原道路着工
 - ・みはら FC（フィルム・コミッション）設立
- 2004 年（平成 16 年）
 - ・第 1 回三原浮城まつり開催
- 2005 年（平成 17 年）
 - ・だるま工房オープン
 - ・1 市 3 町（三原市、本郷町、久井町、大和町）が合併し、新「三原市」誕生
 - ・県立広島大学開学
- 2006 年（平成 18 年）
 - ・山陽新幹線ひかりレールスター三原駅停車
 - ・三原市歌を制定
 - ・第 5 北川丸遭難者 50 回忌慰霊祭
- 2007 年（平成 19 年）
 - ・国道 2 号バイパス部分開通（中之町ランプ - 時広ランプ約 1.6km）
 - ・三原市芸術文化センターポポロオープン
- 2008 年（平成 20 年）
 - ・ペアシティ三原東館解体工事完了
 - ・三原市ふるさと情報発信事業推進協議会設立
- 2009 年（平成 21 年）
 - ・三原市ふるさと大使 10 名を選任



▲すなみ海浜公園



▲ポポロ

2010-2014

平成 22 年～平成 26 年

2010	平成 22 年 4 月	・三原駅前市民広場の管理運営を三原商工会議所が受託	 
	5 月	・三原商工会議所創立 70 周年記念式典挙行 会員大会を開催 櫻井よしこ記念講演会	
	7 月	・第 1 回浮城・歩ラリ～はしご酒開催	
	11 月	・三原商工会議所青年部会 10 周年 三原買援隊～CATV で安心お買物サポート～ ・議員定数及び常議員定数の減員 議員定数 80 人を 75 人に、常議員定数 26 人を 25 人に減らした	
2011	平成 23 年 5 月	・道の駅みはら神明の里運営会社「(株)道の駅みはら」設立 運営会社設立について三原商工会議所が取りまとめ、設立に向け運営協議会を開催	
	11 月	・会員大会を開催 辛坊治郎講演会「混迷日本がスッキリわかる話」	
2012	平成 24 年 3 月	・道の駅みはら神明の里オープン	
	9 月	・会員大会を開催 会員還元バスツアー タオル美術館 ICHIIHIRO、 アサヒビール(株)四国工場、さいさいきて屋	
2013	平成 25 年 4 月	・会員大会を開催 第 26 回全国菓子博覧会	
	11 月	・三原商工会議所は 11 月 14 日に臨時議員総会を開催し、伏見会頭 の後任に勝村善博副会頭が選任され、第八代会頭に就任	

▲第八代会頭 勝村善博

三原市の動き

- 2010 年 (平成 22 年)
 - ・三原ブランド認定 (三原市ふるさと情報発信事業推進協議会)
 - ・講談社月刊マガジンを舞台にしたふるさと大使川原正敏氏の作品「修羅の門異伝ふでかげ」隔月連載はじまる
- 2011 年 (平成 23 年)
 - ・第 1 回三原やっさ検定を実施
 - ・三原市ふるさと大使 3 名新任で 13 名を選任
- 2012 年 (平成 24 年)
 - ・国道 2 号バイパス全線開通 (糸崎ランプ - 時広ランプ 3.0km 部分開通)



◀木原道路トンネル貫通式見学会

- ・広島ブランドショップ TAU オープン
- ・海フェスタおのみち～海の祭典 2012 尾道・福山・三原
- 2013 年 (平成 25 年)
 - ・四代目神明だるまを新調
- 2014 年 (平成 26 年)
 - ・三原市立南小学校 (三原市円一町) 落成

2015-2021

平成 27 年～令和 3 年

2015	平成 27 年 7 月 11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム付商品券三原うきしろ商品券発行 ・三原市中心市街地活性化基本計画が認定される
2016	平成 28 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・会員大会を開催 「瀬戸内三原築城 450 年連携事業」創立 75 周年記念童門冬二講演会
2017	平成 29 年 2 月 11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・FMみはら運営会社「㈱FMみはら」設立 運営会社設立について三原商工会議所が取りまとめ、設立に向け研究会を発足 ・会員大会を開催 「瀬戸内三原築城 450 年連携事業」磯田道史講演会
2018	平成 30 年 5 月 6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティFM（FMみはら）開局   <ul style="list-style-type: none"> ・三原商工会議所は 6 月 27 日に臨時議員総会を開催し、勝村会頭の後任に三好康荘副会頭が選任され、第九代会頭に就任 <p style="text-align: right;">▲第九代会頭 三好康荘</p>
2019	令和 元年 11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・三原商工会議所は 11 月 1 日に臨時議員総会を開催し、三好会頭の後任に森光孝雅常議員が選任され、第十代会頭に就任 ・副会頭の定数を 3 人から 4 人以内に定款変更  <p style="text-align: right;">▲第十代会頭 森光孝雅</p>
2020	令和 2 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響を受ける市内事業所支援のため、三原市、三原臨空商工会とともに三原市事業継続支援実行委員会を設置し、経済対策にあたる
2021	令和 3 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・創立 80 周年・共済制度発足 50 周年記念事業 三原市へ非接触型体温検知器を 5 台寄贈、三原商工会議所会員事業所へ記念品を贈呈、80 周年記念誌を発行

三原市の動き

- 2017 年（平成 29 年）
 - ・三原市と㈱フレスタホールディングスが包括連携協定を締結
 - ・三原城跡歴史公園完成・瀬戸内三原築城 450 年連携事業開催（協議会会長 勝村善博会頭）
 - ・山脇邸に Caffe' / Restaurant よがんす OPEN（現：Pizzeria YOGANSU）
- 2018 年（平成 30 年）
 - ・映画「やっさだるマン」の市内先行上映会
 - ・瀬戸内みはら美味しい MARKEEE(t) 開催（㈱まちづくり三原主催）
- 2019 年（令和 元年）
 - ・三原市新庁舎で業務を開始
- 2020 年（令和 2 年）
 - ・三原市プレミアム付商品券発行（三原市・三原商工会議所・三原臨空商工会で実行委員会組成）
 - ・三原駅前市民広場跡地に図書館を核としたキオラスクエア落成
 - ・新型観光クルーザー「SEA SPICA」運航開始
 - ・新型観光列車「etSETOra」運行開始
 - ・空の駅オーチャードオープン



▲ SEA SPICA



▲映画やっさだるマン

- 2021 年（令和 3 年）
 - ・国道 2 号木原道路開通
 - ・広島空港が民営化される

©「やっさだるマン」製作委員会

三原市の商業 / Commerce

三原市中心市街地の大型ショッピングセンターを中心に、宮浦地区等へスーパーマーケットやドラッグストア等が相次いで出店し、コンビニエンスストアも市内各所に多数点在しています。

平成 27 年 11 月には「三原市中心市街地活性化基本計画」が内閣府の認定を受け、令和 2 年に三原駅前市民広場跡地へ、公共の主要事業であった図書館・ホテル・商業施設・立体駐車場等の機能を持つ「キオラスクエア」がオープンしました。

また、民間事業では、三原商工会議所が中心となって設立した「株式会社まちづくり三原」が、史跡等歴史的資源に恵まれ城下町の風情を残す三原市本町エリアのシンボリック存在である、古民家「山脇邸」をリノベーションし、イタリアンレストランのオープンを支援しました。

「三原市中心市街地活性化基本計画」は、令和 3 年で第一期計画が終了し、現在第二期計画の策定に向け取り組んでいます。



▲キオラスクエア



▲ Pizzeria YOGANSU



▲ 大型ショッピングセンター ▲



三原市の工業 / Industry

三原市の工業は古くは、醸造業等にはじまり、臨海域に繊維、セメント、化学、機械、造船等の企業が進出し、工業都市として栄えてきました。

近年では、三原市西部等に整備された工業団地に、機械、合成樹脂、車輛部品、ガス、食品、飲料と多様な製造業が進出しており、新たな基幹産業として成長しています。

令和3年には「本郷産業団地」の整備が完了する予定となっており、未来の三原市を支える企業進出の促進が行われています。



▲機械工場



▲造船工場



▲合成樹脂工場



▲西部工業団地（惣定地区）



▲西部工業団地（小原地区）

三原市の祭り / Festival

小早川隆景公が約 450 年前に三原城を築城した際、その完成を祝い思い思いに躍り出たことがはじまりとされる、やっさ踊りを中心とする 8 月の「三原やっさ祭り」や、隆景公が三原市の豊凶を占った植木市・だるま市などでにぎわう 2 月の「三原神明市」、三原市の市花に由来し名づけられた 5 月の「三原さつき祭り」等、年間を通してさまざまなお祭りやイベントが催されます。



▲三原神明市



▲半どん夜市



▲三原やっさ祭り



▲三原さつき祭り



▲三原浮城まつり

三原市のタコ / Octopus

三原市は瀬戸内海有数のマダコの産地で、三原の海で育ったタコは、プリップリの歯ごたえと、噛みしめるほど豊かな旨みを堪能でき、ブランドタコ「三原やっさタコ」として売り出しています。
また、タコを使用した料理や加工品、お菓子等いろいろな商品があり「タコのまち」として知られています。



▲マダコ



▲タコ飯



▲タコ飯の素



▲たこせん



▲タコの料理



▲タコ天

三原市の特産品・土産品

Special products

三原市は、かつてたくさんの酒蔵を有した酒処で、「酔心」がその伝統を今も継承しています。民芸品では、「三原だるま」があり、鳴り物の鈴や小石をいれ、頭が細長く豆絞りの鉢巻をしているのが特徴です。

瀬戸内の「柑橘類」や広島県内の約50%の生産量を占める「鶏肉」。鳥モツを入れた「三原焼き」、昔懐かしの飲料やソースなど特徴ある製品の他、近年では、スイーツの知名度も全国的に広がっており、たくさんの特産品・土産品を楽しむことができます。



▲酔心



▲三原だるま



▲瀬戸内の柑橘類



▲神明鶏



▲三原焼き



▲スマックゴールド



▲テングソース



▲クリーむパン



▲ヤッサ饅頭



▲三万石名城焼



▲初恋プリン



▲ひとつぶのマスクット

三原市の観光 / Sightseeing

三原市は、歴史や海山の自然があふれるまちで、数々の観光スポットが点在しています。

これらのスポットを巡る観光客を誘引するため、三原商工会議所が中心となり、平成23年に運営会社「(株)道の駅みはら」を設立し、平成24年に「道の駅みはら神明の里」がオープンしました。

平成29年には三原城の築城450年を記念し、「みはら鯉の城下町」として三原城濠に約240匹の錦鯉を放流する事業など、各団体でいろいろな催しが行われました。また、三原市公式マスコットキャラクター「やっさだるマン」が誕生し、現在では様々なイベントや行事に出演しています。

令和2年には、数あるスポットをつなぎ回遊性を高め、観光地としての認知を広げるため、三原市の観光を担うDMC「(株)空・道・港」が設立され、広島空港周辺に「空の駅オーチャード」がオープンしました。また、三原市と世羅町の関係機関が連携して「ひろしま中央地域連携 DMO 推進協議会」が設立され、エリア全体の観光振興に取り組んでいます。



▲道の駅みはら神明の里



▲三原城跡



▲三原城濠の錦鯉



▲やっさだるマン



▲空の駅オーチャード



▲国立公園筆影山



▲佛通寺



▲御調八幡宮



▲小早川隆景公像

事務局役職員



後列：	實廣	乃美	香田	今本	辻原	砂谷	原
前列：	丸本	尾田	森川	平野	黒田	森山	星野

専務理事	平野 敬二
事務局長兼総務管理課課長	黒田 昌紀
事務局次長兼経営指導課課長	森川 英明

総務管理課係長	今本 亜希
総務管理課	辻原 和美
総務管理課	砂谷穂奈美
総務管理課	丸本 拳

商工振興課課長	経営指導員	星野 佑介
商工振興課係長	経営指導員	香田 理絵
商工振興課		乃美 浩子
商工振興課		森山 信雄
商工振興課	補助員	原 弥幸

経営指導課	経営指導員	尾田 丈治
経営指導課	補助員	實廣 雅代

あとがき

おかげさまで、三原商工会議所は令和2年6月に創立80周年を迎えることができました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で記念式典は開催せず、本記念誌の発行により三原商工会議所の現在まで80年間の取り組みを報告させていただければ幸いと存じます。

現在は、厳しい経営環境や社会情勢ではありますがゆえに、地域を支える総合経済団体としての商工会議所の使命は重大さを増していると実感しております。三原商工会議所は、三原市の産業振興と発展、組織の基盤であります会員事業者の活性化、三原市全体の活性化に向けまして、微力ながら精一杯貢献して参りますことを、改めてお誓い申し上げます。

最後になりますが、本記念誌の発行にあたり、ご協力いただいた諸団体並びに関係者の皆様に心から感謝を申し上げます、あとがきの言葉といたします。

創立80周年記念事業特別委員会

委員長 赤利 俊彦
副委員長 内海 勝議
委員 深山 隆一
委員 小池 雄大
委員 向田 尊俊
委員 藤井 寛也
委員 鶴田 幸彦
委員 檜山 泰三
委員 須崎 裕之

三原商工会議所
創立80周年記念誌

80年のあゆみ

～あしたを変える 未来を変える～

発行 令和3年9月 三原商工会議所
創立80周年記念事業特別委員会

〒723-8555 三原市皆実4丁目8-1
TEL (0848) 62-6155 FAX (0848) 62-5900
HP <https://www.mhr-cci.or.jp/>

印刷 大東印刷(株)
〒723-0052 三原市皆実4丁目5-30
TEL (0848) 62-3389 FAX (0848) 62-3399

